



なかがみの郷

祝祭日は国旗「日の丸」を揚げましょう

君が代は 千代に八千代に

さざれ石の いわおとなりて

こけのおすま

奈加美神社
第6号
平成21年冬号
12月1日発行

泉佐野市中庄834
電話462-7080

改称百周年記念奉祝大祭を終えて

奈加美神社 宮司 北岡忠澄

振り返りますと、平成十八年十二月三日に第一回奉賛会設立準備委員会を開催させて頂いてより、三年を迎えようとしております。この間、奉賛会の役員皆様には度々の諸祭儀・諸会議にお集まり頂き、記念事業が円滑に運営出来ました事を感謝申し上げますと共に、千軒を超える氏子崇敬者の皆様に心温まるご浄財のご寄進を賜りました事を心より厚く御礼申し上げます。



さて、第二期工事・拝殿改修工事が九月に完工し、同月十三日に社務所仮殿より本殿に大神様をお還しする本殿遷座祭を厳粛に斎行申し上げます。前回この遷座祭が執り行われたのは昭和六十年の事であり、実に二十四年ぶりの神事でございました。近隣の神社の神職にご奉



仕を賜り、浄闇（暗がり）に雅楽の音色に導かれ、御神体が人の目に触れる事の無いように、絹垣という白い布に囲まれ、大神様の重みをこの身にひしひしと感じ、多くの参列者に見守られるなか、無事ご本殿にお遷し申し上げました。

また、同月二十七日には秋晴れに恵まれ、改称百周年を祝う記念奉祝大祭を賑々しく盛大に執り行いました。当日は午前八時より本殿にて祭典を斎行し、献幣使として大阪府神社庁副庁長・坐摩神社渡邊宮司様のご参向を仰ぎ、神社本庁より幣帛を賜り、奉祝の誠を捧げました。

祭典後は色とりどりの晴

着を着たお稚児さんが、手に持つ鈴の音も清々しく宮入し、続いて地車が勇ましく宮入したのち、拝殿前で記念式典が執り行なわれ、奥野奉賛会会長を始め各地区の代表により御神酒の鏡開きが行われました。夕刻より境内にかがり火が焚かれ、朱の色も鮮やかに塗替えられた拝殿が美しく照らされ、幽玄な雰囲気の中、舞楽「蘭陵王」「納曾利」の二舞が奉納されました。続いて「日本の歌かがり火コンサート クラシックの夕べ」と題し、枚方の御殿山神社の神職でもあり、オペラのソリスト、また演出も手掛ける片岡伸介さんや篠笛奏者の小泉なおみさん等により、「荒城の月」「おぼろ月夜」を始め多くの名曲が演奏されました。また会場の皆さんを交えて「見上げてごらん夜の星を」「故郷」などの曲が合唱され、会場は大いに盛り上がり、大きな拍手と共にアンコールの音が響き、名残惜しくも「浜辺の歌」を最後にお開きとなりました。



奉祝大祭当日は朝から晩までの長い一日でしたが、三年間を締めくくると大変良い一日となり、私にとっては生涯の思い出となりました。ご参加頂いた皆様にも心に残る日でありましたらなら、大変嬉しく思います。

今回のような大きな行事は度々出来る事ではございませんが、鎮守の杜の氏神さまは皆様の祈りの場であると同時に、文化の交流・発信の場でもありますので、今後はこのような文化行事にも取り組んで参りたいと考えております。

なお、今回の本殿遷座祭並びに改称百周年記念奉祝大祭の両日ともDVDに収録致しておりますので、ご希望の方はお申し出下さい。

また、奉祝大祭の様子は十二月よりジェイコムりんくうチャンネルで放映される予定でございますのでご覧下さい。

奈加美神社神鈴 成就なす

茄子はあだ花が無く良く実を結ぶと云う事などから、古くより縁起の良いものとされてきました。また「ナス」「為す」「成る」との音の響き、良く実を結ぶ事から願いが叶う「成就」にも通じます。

この度の改称百周年を記念して、泉州名産の水なすをモチーフに手作り土鈴「奈加美神社神鈴 成就なす」を謹製致しました。



何か地域に因んだ縁起物をお思い、無い知恵を絞って温めてきたものですが、なかなか作り手が見

つかりませんでした。しかしこれも「縁」不思議なもので、過去のちよつとした出来事がきっかけで、千早赤阪村の建水分神社の神職さんから、滋賀県大津市の土鈴職人の中野和彦氏を紹介して頂きました。せつかく作るんやからええもんをお思い、細部まで色々と注文をお願いしたところ、中野氏の職人魂に火を点けてしまい、わざわざ泉佐野まで足を運んで頂いて神社総代の松谷惣太郎さんの畑で実物の水なすを手にしてもらい、何度も試作を重ね、漸く納得のいく素晴らしい物に仕上がりました。もちろん神社の縁起物ですので、単なる「モノ」ではありません。御神前でお祓いを奉仕し、お受けになられた人が手作りの土鈴の素朴な音により神様の御恵みを戴かれますようお祈り致しております。

九月二十七日の記念奉祝大祭には一〇〇個をご用意しましたが、瞬く間になくなってしまいました。何分手作りですので大量生産は出来ませんが、お正月には間に合うよう追加のお願いをしておりますので、ご希望の方はお早めにごどうぞ。

神棚・御札をおまつりしましょう

近年、神棚・御札をおまつりするご家庭が減少傾向にあります。世帯の核家族化やおまつりするスペースが無い事などが理由に挙げられるかと思いますが、神まつりはご先祖様が守ってきた日本の伝統的習慣であり美風であります。



神道には「敬神崇祖」という言葉があります。これは神を敬い祖先を尊ぶ事により、お蔭を頂き守り導かれるのです、という教えです。一番身近にで



きる事が、ご家庭で伊勢神宮・氏神さまの御札をまつり、また祖霊舎やお仏壇で先祖さまをまつり尊ぶ事です。朝一番に神棚に手を合わせてそれぞれの無事に感謝し、ご家族がお互いの無事を願う事により絆が深まり、ご家族皆さまの幸せにつながります。神さま仏さまに手を合

わす美しい姿が次世代に受け継がれて行く事は、大変尊いことです。

当社では、従来の宮型や札宮・壁掛けタイプなど、それぞれのご家庭にあつた大小様々な神棚をご用意致しておりますので、お気軽にご相談下さい。難しく考えずにまずはおまつりすることから始めましょう。

神道豆知識 ～其の六～

神社ではなぜ 数え年？

年齢の数え方には、「数え年」と「満年齢」があります。

誕生日ごとに1歳加える「満年齢」は明治以降に定着した数え方で現在に至っておりますが、それ以前は「数え年」が一般的でした。当初は「零ゼロ」の概念が無く、生まれた日から1歳と数え、お正月を迎えるごとに1歳加えました。

これはお正月に新しい年の五穀豊穰と家族の幸せを祈るために、各家庭に「年神様」を迎えると言う習慣によります。

こうした日本の伝統的な考え方を継承していくことから、神社では現在も「数え年」を尊重しております。

